

稚内港港湾脱炭素化推進計画の策定について

稚内市 建設産業部 港湾空港課

稚内港では、カーボンニュートラルポートの形成に向け、令和6年2月に港湾利用者や行政機関等を構成員とした稚内港港湾脱炭素化推進協議会を設立し、計4回の協議会における議論やパブリックコメント等を経て、令和7年9月26日に稚内港港湾脱炭素化推進計画を策定しました。

本計画では、カーボンニュートラルやカーボンマイナスの目指す姿を明確にするため、現在の稚内港のポテンシャルを活かした目指す将来像として次の3つの取組方針を定めました。

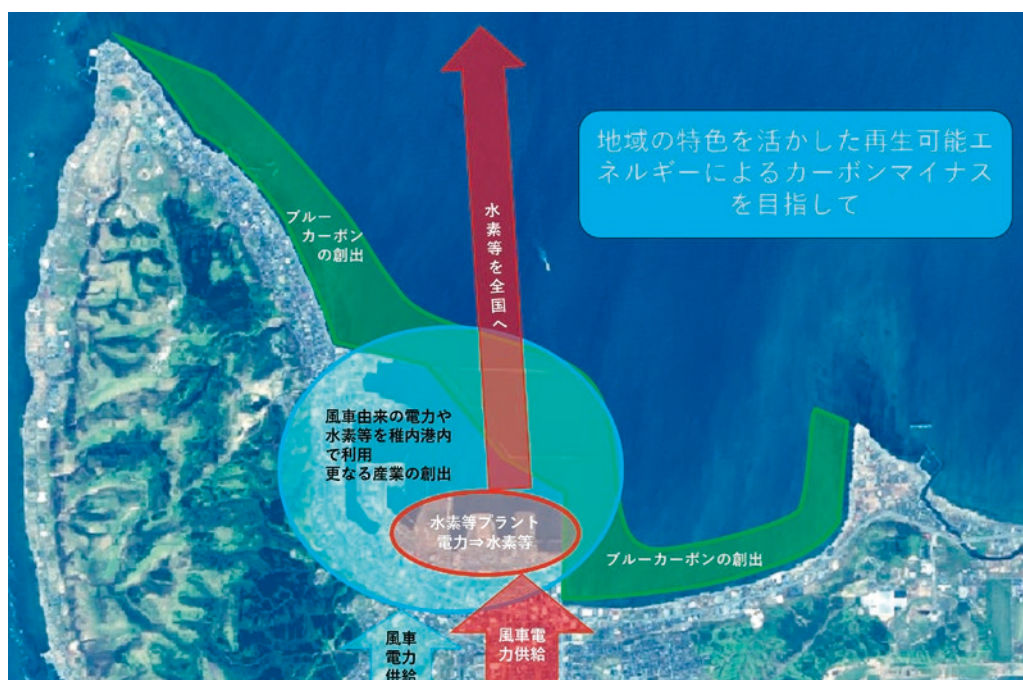
- ①「道北地域の再生可能・次世代エネルギーの活用・供給拠点」として、地域に必要な水素等次世代エネルギーの貯留機能の導入、フェリー・漁船等の停泊船舶へのグリーン電力供給機能の導入、臨港地区内の各事業所の省エネ化・グリーン電力供給などによる港湾の脱炭素化を目指します。
- ②「ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収源の創出」として、港湾区域内において漁業者等と連携して藻場の造成・保全を行うことにより、ブルーカーボン生態系の創出によるCO₂吸収源の増加と持続可能な漁業活動の両立を目指します。
- ③「グリーン水素等の生成拠点」として、稚内港背後



第1回稚内港港湾脱炭素化推進協議会開催の様子

圏で生産された風力発電等のグリーン電力を港湾及び臨港部で利用するとともに、将来的には臨海部で余剰電力を活用した水素等を生成し、稚内港から全国へグリーン水素等の排出を目指します。

稚内港は、道北の産業拠点、離島とのフェリー基地、沿岸沖合漁業基地などとして重要な役割を担っている港であるとともに、稚内港背後圏では、全国屈指の恵まれた風況を活かした風力発電を中心に、太陽光、バイオマスなど再生可能エネルギーの導入に官民挙げて取り組んでおり、これらの地域特性を活用しながら、新たな産業の創出やGX関連産業の集積も視野に入れ、2050年のカーボンニュートラル実現を目指し、稚内港の脱炭素化を推進していきます。



稚内港における脱炭素化推進計画のイメージ